

(様式2-2)

令和5年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校・指定校群 (三豊市立山本小学校)

2 実施の内容

○「キラリカード」による交流

友だちの良さを発見して称賛し合うために、今年度も「キラリカード」を活用した。校内なかよし週間中だけでなく、日常的に学級内の友だち、他学級や他学年の友だちの良さを認め、カードに書いて紹介した。カードを教室内に掲示することで、一人でも多くの友だちに良さを認めてもらう機会とした。また、学期末懇談会の際には、保護者に我が子の良さを認めるカードの記入を依頼している。これらの取組を通して、良さを認め合える人間関係づくりを進めたり、自己有用感を高めたりした。

○「マイボランティア」の称賛

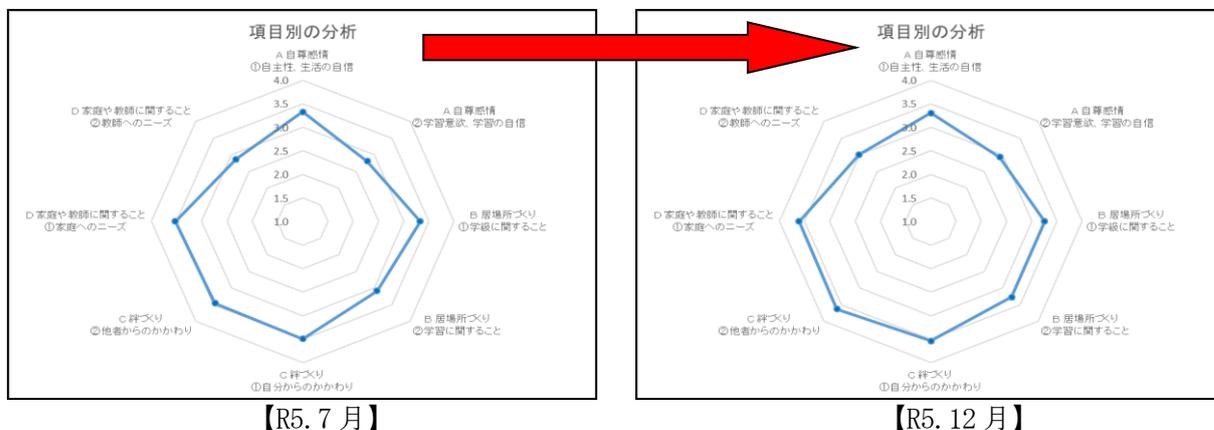
朝の自主清掃をはじめ、教室での配りものやトイレのスリッパの整頓等、自ら進んで役に立つ行動を行うことができた日には、シールを渡し称賛するようにした。そのシールは個人に配布している「がんばりの木」という台紙に貼らせ、自分の頑張りを可視化した。また、教室には学級の「がんばりの木」を掲示し、学級の90%以上が3日以上ボランティアできると校長から花がもらえ、それを貼るようにした。これらの取組を通して、自己有用感の高揚や学級の一体感の醸成につなげるようにした。

○児童会が中心となるイベント

児童会が中心となって行うお楽しみコンサートを実施した。今年度は、児童会が「名前のさんづけ」目標を提案し、それが達成できたら「さんさんコンサート」を行うことにした。全校生が同じ目標に向かって取り組むことで一体感が生まれるとともに、コンサートが個性や技の発揮の場となったり、他者理解の場になったりした。

3 成果

(1) アンケート結果の変遷 (6年生)



6年生は、全ての分析項目においてわずかではあるが上昇した。特に、A：自尊感情「学習意欲、学習における自信」、B：居場所づくり「学習に関すること」、C：絆づくり「他者からのかかわり」、D：

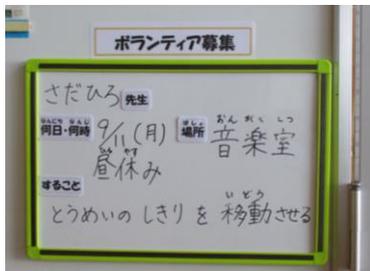
家庭や教師に関すること「教師へのニーズ」において0.1～0.2ポイントの上昇が見られた。本年度、子どもの良い行いについて、しっかり褒め、自分に自信をもたせるとともに、児童会を中心に高学年が活躍する場を設定してきた成果が現れていると考えられる。

(2) 自発的・自治的な交流活動における子どもの様子



【キラリカードの掲示・紹介】

学級では4月から帰りの会でキラリカードを紹介し掲示するようにした。また、6月の全校なかよし集会では、児童会が「キラリポスト」を提案し、他の学年から素晴らしいことや頑張りについて書いてもらうようにした。それらは期間を設定して昼の放送で児童会が紹介した。自他の良さについて認め合ったり、自分が気付いていない良さを知ったりする機会にもなり、自尊感情を高めることができた。



【ボランティア募集ボード】

ボランティア募集ボードをホールに設置した。行事などがある際、高学年などを指定してその準備をさせるのではなく、教師がボードに、日時・場所・内容を記入し、ボランティアを募って自主的に取り組めるようにした。低学年の児童がたくさん参加する日があるなど、「ボランティアをしてみたい」と思う児童が増えた。また、終わった後には、教師から感謝の言葉も伝え、自己有用感を高めるようにしている。



【さんさんコンサート】

児童会主催のお楽しみコンサートを開催した。今年度は、「名前のさんづけ」を目標にし、全校が達成できると開催するようにした。コンサートでは、友だちと一緒に出し物をしたり、自分の得意なことを披露したりした。コンサートに向け、様々な場所で練習する姿が見られ、出演した子と観覧した子、全校生が一つになることができる会となった。また、発表を通して、友だちの新たな一面を知る機会にもなった。

(3) 総括

- アンケート結果（学校独自のアンケートも含む）や日々の子どもの様子から、良い変容を見取ることができた。ボランティア募集ボードなど、子どもの自主性を生かして成功体験を積み重ね、それをしっかり認めて褒めることで、子どもが周囲の人の役に立ちたいという思いをもち、自ら積極的に友だちと関わっていくことができるようになったのではないかと考える。そのことが、自己有用感の向上につながり、本校の強みになっていると思われる。
- 「キラリカード」を学級だけで終わらせるのではなく、他の学級・学年からも書いてもらうようにすることで、登下校や休み時間など、学級の中では気付かない良さを知ってもらえる機会になった。そのことが自信につながり、次の活動への原動力になっている。
- さんさんコンサートでは、開催のために全校児童が同じ目標に向かって取り組むことで、協力することの大切さを実感できた。また、コンサートで出し物をみんなに見てもらい、認められることで自己有用感の向上につながった。
- 今後も、「心の交流」という目標を学校全体で共有し、学級経営、学校経営の中で重視していく。また、子どもたちに任せる場を積極的に設定し、心の充足感を高めることを通して、いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止に努めていきたい。